

## 令和6年度第2回行政評価委員会（人づくり・地域づくり部会）会議録

### 1 開催日時

令和6年7月26日（金）13：30～15：00

### 2 開催場所

花巻市生涯学園都市会館3階 第3学習室

### 3 出席者

#### （1）委員5名

杉谷和哉委員（部会長）、市野川啓委員、日下明久美委員、中村萬敬委員、中里美委員、板垣武美委員

#### （2）説明者（施策関係部、施策主管課長）2名

瀬川幾子教育部長、菅野弘学校教育課長

#### （3）事務局（施策及び事務事業担当課）

財政課経営財務係：佐藤亜美主事

秘書政策課企画調整係：八重樫尚孝係長、阿部ゆうみ主査

### 4 議題

市が実施した施策評価のうち、花巻市行政評価委員会の評価対象施策である「学力・体力の向上」について評価を行った。

#### （1）施策主管課による説明、質疑応答

#### （2）委員会の評価結果の集約

### 5 議事録

#### （1）施策主管課による説明、質疑応答

（中村萬敬委員）不登校の児童生徒について現状を教えてください。

（菅野弘学校教育課長）花巻市だけでなく全国的な傾向だが、増加の一途をたどっている。様々な指標があるが、よく使われるのが出現率というもので、全体の子どもの数に対する不登校の子どもの数で算出するが、全体の子どもの数が減っているにもかかわらず不登校の数は増えているという現状がある。

（杉谷和哉部会長）学力向上支援員は小学校と中学校どちらに配置されているか。

（菅野弘学校教育課長）指導員は一名おり、その一名が小・中すべての学校を訪問している。

(杉谷和哉部会長) 学力・体力ともに、小学校より中学校で数値が下がる傾向があるが、その理由についてどのように分析しているか。

(菅野弘学校教育課長) 小学校の問題は基本的な部分の理解が追いついていなくても何とか解けてしまう場合があり、結果に反映されにくい。一方で中学校に上がると小学校の範囲がすべて定着していることが前提で始まるため、基礎の部分でつまずきがあると最初からついていけなくなることもある。

(杉谷和哉部会長) つまり、一見、小学校の成績は中学校に比べて悪くないように見えるが、実は課題は小学校の内容の基礎的な学びにあるのではないかと分析しているということ。もうすでに行っていることと思うが、学校の先生へのヒアリングや、子どもたちの学力の現状分析を進め、現場のニーズに合った事業に取り組んでいただければと思う。

(日下明久美委員) 先生のほかにも、学力向上支援員やICT支援員など配置しているようだが、いつごろから配置しているのか。

(菅野弘学校教育課長) 花巻市では、学力向上支援員は少なくとも平成28年には配置されていたと記憶している。また、ALTに関しては国の事業として平成の初期のころには制度があったものと捉えている。ICT支援員については、令和2年度からGIGAスクール構想が開始し、令和3年度からインターネットやパソコン機器に長けたスタッフを支援員として教育委員会で採用している。

(杉谷和哉部会長) スポーツに関しての専門の支援員はどうか。

(菅野弘学校教育課長) スポーツに関しては特に支援員を配置しているものではなく、実践校として小学校3校を指定しており、その指定校で講師を呼んで体力向上の取り組みを行っている。

(日下明久美委員) そういった支援員の人数は一定のものなのか。

(菅野弘学校教育課長) 需要は高まっており、長期的にみると増えている。

(日下明久美委員) 体力向上の実践校は3校ということだが、その学校は毎年変わるのか。

(菅野弘学校教育課長) 2年ごとに指定校が変わる。平成26年度からスタートしており、令和6、7年度で全ての学校を指定したことになる。それぞれの学校の成果についてはほかの学校に紹介し、共有している。

(日下明久美委員) 資料では単年度しか分からないが、成果はどうなっているか。

(菅野弘学校教育課長) 例えば、指定校になったすぐ後に飛躍的に体力テストの数値が伸びるかというところもそういうものでもないもので、はっきりとこのような成果が出ていると申し上げることは難しいが、指定校となった学校の先生方がその時に身につけたことをもとに他の学校で指導するということもあり、その学校に限らず少しずつ小学校全体的に成果が上がっているとみている。

(杉谷和哉部会長) いま日下委員がおっしゃったように、様々な取り組みをされているが現状芳しい成果が上がっていないというのは気になるところで、やはり既存の事業の取り組み方や考え方に何かしら問題点や限界があると考えられる。多様な取り組みの中で何が成果につながっているかを見極めることは難しいかと思うが、現状を調査し、見直す余地がないかを考える必要があるのではないか。

(市野川啓委員) タブレット端末について、花巻市内の小学生は全員使っているのか。  
(菅野弘学校教育課長) 現在、小中学生全員が使っている。

(市野川啓委員) そのカリキュラム、内容は県内で全て同じものなのか。

(菅野弘学校教育課長) 小学校6年生の外国語と中学校の英語に関しては、デジタル教科書と呼ばれるもので今年度より全国一斉に配布されましたので全国的に同様のもの。花巻市独自で取り入れているソフトウェアとしては、AI型ドリルというものがあり、それは各教科の問題を解いていくと正解・不正解のデータが集約され、その子ごとの得意・苦手のデータが作成されるというもの。

(市野川啓委員) データとして成果が見られるのであれば、学年ごとや学校ごとに良い部分、悪い部分分かるのか。

(菅野弘学校教育課長) 学力テストを行うと、学校ごとの得意不得意などの差は出てくるが、それがどのような影響によるものなのかは判別が難しい。

(市野川啓委員) 良い結果が出ている学校の取り組みをほかの学校が参考にすることができるのでは。

(杉谷和哉部会長) 学校ごとに差があるのであれば、それには何かしら原因があると考えられる。その学校独自の実践に何か鍵があるかもしれない。データを使うことで比較的簡単にそういった気づきにつながるのであれば、検証する余地があると思う。

(市野川啓委員) 詳しくは知らないが、ゲーム性があり、子どもたちが競争しながら学べるソフトウェアのようなものもあるのか。

(菅野弘学校教育課長) そういったものもあり、子どもたちの意欲の向上につながるものと考えている。

(板垣武美委員) 施策評価シートの作成方法について伺う。このシートを作成したのは菅野課長か、もしくは分析チームのようなものがありそこで作業をしてこのような形にしているのか。また、どのようなタイミングで作成しているか、例えば新年度早々に着手していつごろまでに仕上げる、などの流れを教えてください。

(菅野弘学校教育課長) 一つひとつの事務事業の成果等については担当者がおり、その担当者が分析してデータをまとめている。それらのデータを集約して施策評価

シートを私が作成している。

(板垣武美委員) 地方教育行政の組織及び運営に関する法律の第26条において、「事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成」とあるが、この「点検と評価」と、秘書政策課で行っている「行政評価」との関係はどのようになっているのか。

(瀬川幾子教育部長) 毎年8月頃に教育振興審議会にて報告を行っているが、その報告の中にこの施策評価の内容も含まれる。

(杉谷和哉部会長) 審議会の中でこの行政評価の内容が参考資料のような形で上がるのか。

(瀬川幾子教育部長) この施策評価シートそのものを使うわけではなく、教育振興基本計画に沿った形で報告するもの。

(中村萬敬委員) 学校独自の取り組みだけでなく、地域コミュニティ、家庭教育やPTA、または保育園や幼稚園などとの連携が重要と考えるが、いかがか。

(菅野弘学校教育課長) 岩手県としては、今年度で60年目となる、学校と地域社会が一体となって子どもたちを育む教育振興運動という取り組みがある。また、国ではコミュニティスクールを推進しており、これは学校と地域や家庭が一緒になってその学校運営協議会を設立して運営していく取り組みである。

(板垣武美委員) 第3期教育振興基本計画の進行管理について、成果指標の達成度を毎年度把握することとし、というくだりがあるが、これはいわゆる行政評価のシートによって把握するということか。

(瀬川幾子教育部長) 成果指標については、内部の行政評価を経たものである。

(板垣武美委員) 関連して、教育振興基本計画の文章中に「実施計画」とあるが、ホームページ上では「実施計画」が見当たらない。

(瀬川幾子教育部長) いまホームページの掲載について確認ができないが、実施計画は策定している。

(板垣武美委員) 実施計画は毎年度作成するものなのか、何年かごとに見直すものなのか。

(瀬川幾子教育部長) 基本的には基本計画とともに策定し、必要な見直しを毎年行うもの。

(中里美委員) 少子化に伴い教員の数も減るものではあるが、教員の志望者数について現在問題はないか。

(菅野弘学校教育課長) 教員数については県の教育委員会が担当しており、学級数に対して教職員何名というふうに割り当てられている。市としてはそれだけで足り

ない部分に対して支援員を配置することで対策をしている。

(杉谷和哉部会長) 全国的に教員不足は問題となっていると思うが花巻市としてはどうか。

(菅野弘学校教育課長) 定員としては足りているが、事情により途中で退職、休職となった場合に補充で入る方がなかなか見つからないという現状がある。

(日下明久美委員) 不登校について、小中学校は義務教育であるから、その子の対策がどうなっているか不安に思う。学力調査など行っているが、そこに不登校の子の数は入らないということ。不登校の割合も増えていると先ほどもおっしゃっていたが、今後どうするのか。

(菅野弘学校教育課長) 以前は何とか学校に来られるよう、担任が家庭訪問を行うなどしていたが、現在は学校以外のスペースを作り、そこに通う取り組みが主流となっている。例えば、花巻市としてはまなび学園内に「風の子ひろば」という場所があり、学校には行けないが、そこでは活動や勉強ができるという子を受け入れ、学校と情報共有している。また、国の動きとしては、学校内の空き教室を活用して少しリラックスできるような環境をつくり、教室に行けない子を受け入れる取り組みを進めている。他に、NPO法人が運営しているフリースクールと学校が連携しながら、学校以外の場でも学ぶことが出来る仕組み作りも現在行っている。

## (2) 委員会の評価結果の集約【施策評価検証シートの整理】

### ①「前年度の振り返り」の「反映状況」について

(板垣武美委員) 令和4年度施策評価シートを見たときに、令和5年度の評価シートと内容がほとんど同じに見える。これはどう解釈すればいいか。

(八重樫尚孝係長) 事業を1年間実施してすぐに成果が表れるものでもないため、継続して同じ事業を続けることは必要である。また、毎年同じ事業を行っているように見えても生徒や先生は変わっている。評価シートの記載方法について補足すると、「現状と課題」は中期プランから転記しているため毎年同じ内容になることや、「前年度評価時の今後の方向性」の欄は前年度の評価シートの「今後の方向性」の文章が転記される仕様となっていることに留意いただきたい。

(市野川啓委員) 毎年様々な取り組みを行っている中で、文章としてまとめるとこのような形になるということではないか。

### ②「成果指標の達成状況」の「達成状況に関する背景・要因」について

(日下明久美委員) 評価の文言として間違っていないと思うが、毎年同じような内容を要因として書くのであればあまり意味がないと感じる。

### ③「施策を構成する事務事業の検証」について

(板垣武美委員) 「なし」ばかりだと、本当はないのか、と疑問を感じる。

(杉谷和哉部会長) 「新たに取り組むべき事業はないか」の欄は予算の兼ね合いなどもあるのかもしれないが、積極的に記載しても良いのではないかと感じる。

④ 「施策の総合的な評価」について

(杉谷和哉部会長) シートの内容自体は情報がしっかりと伝えられており概ね適切な評価となっていると思うが、その評価を受けて、目標値に達していない部分についてはもう少し積極的に事業の見直しや改善に力を入れてもいいのではないかと感じる。

(以上)